

『発掘宇治, 21』

令和3年度 発掘調査・文化財速報



宇治古墳群（瓦塚古墳）発掘調査（1月）



かぐらでん
神楽田遺跡発掘調査（3月）



白川金色院跡発掘調査（1月）



庵寺山秋の一般公開（11月）



白川金色院跡発掘調査（1月）



大幣神事（6月）

宇治市歴史まちづくり推進課

史跡 宇治古墳群

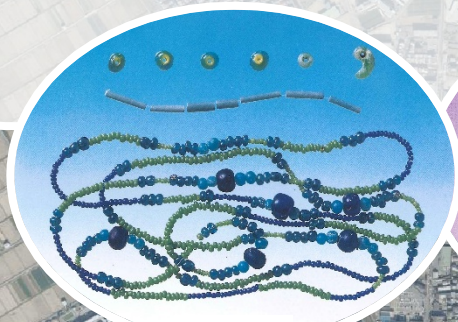
指定 2018 年（平成 30 年）10 月 15 日 指定面積 25,596 ㎡

宇治古墳群は、観音山古墳・二子山古墳（北墳・南墳）・瓦塚古墳・二子塚古墳の 5 基からなる古墳群です。これらの古墳は、宇治川・巨椋池と密接な関係を持っています。

地域における古墳の展開が判る重要な事例で、現存する 4 基の円墳と 1 基の前方後円墳のうち、保護の急がれる二子山古墳北墳と二子山古墳南墳の 2 基の円墳、並びに前方後円墳の二子塚古墳が史跡に指定されました。

- 【二子塚古墳】墳長 112m で二重の周濠を持つ前方後円墳。
- 【瓦塚古墳】直径 30m の円墳。
- 【観音山古墳】直径 46.5m の円墳。
- 【二子山古墳北墳】直径 40m の円墳。
- 【二子山古墳南墳】東西 34m、南北 30m の円墳。

瓦塚古墳 瓦塚古墳は、直径約 30m、高さ約 4m の二段築成の円墳であることが推測されています。古墳の周囲は水田となっており、この部分が周濠と考えられています。これまでの発掘調査で埋葬施設 2 基を確認し、さらに段築テラスと埴輪列、葺石が確認されました。埋葬施設は盗掘によって大きく破壊されていましたが、礫柳からは馬具が、木棺からは鉄鏃・刀子・棺金具が出土しています。令和 4 年 1 月にも発掘調査を行い、古墳周濠の可能性のある溝と、堤の可能性のある地山の高まりを確認しました。また、古墳より混入したとみられる埴輪片が出土しています。



玉類



金銀金具付杖形品

巨椋池干拓田

ありし日の巨椋池

二子塚古墳 二子塚古墳は、墳長 112m の大型の前方後円墳で、古墳時代後期のものとしては京都市下最大級の古墳です。近畿の大型前方後円墳としては最古の段階の横穴式石室を持つことが確認されています。墳丘は二段築成で、葺石・埴輪を持ち、二重の周濠を持つこと、外堤上にも埴輪が設置されていたことが明らかとなりました。埴輪から古墳時代の後期前葉に位置づけられており、墳丘の形態は大阪府高槻市の史跡今城塚古墳とほぼ同形であり、強い関連性が指摘されています。



出土品 円筒埴輪



昭和 63 年石室地業



昭和 63 年航空写真

観音山古墳



南墳 甲冑と三環鈴

二子山古墳

二子山古墳は、北墳と南墳の 2 基の古墳です。昭和 43 年に発掘調査が行われ、多くの副葬品が出土し、古墳時代中期中葉と中期後葉の古墳であることが明らかになりました。しかし、南墳の墳形が未確定であることと北墳北西部に平坦面があり、造り出しの存在が推定できることから、平成 29 年に内容確認調査を実施しました。その結果、南墳は円墳であることが確定し、北墳北西部には造り出しがないことが明らかとなりました。



北墳西柳 甲冑



北墳 埴輪列

「宇治茶の生産・販売用具」が国の有形民俗文化財に登録されました

本資料群は日本の緑茶文化に大きく影響を与えた京都府南部の南山城地方で古くから栽培されてきた宇治茶の生産と販売に関する用具を収集したものです。宇治では明治末期から昭和初期にかけて製茶作業の機械化が進みましたが、本資料群は機械化以前の手作業による用具が充実しています。宇治における生業の特色を知ることができるとともに、我が国の製茶技術の変遷を理解する上で注目されました。

本資料群は、近世末期から昭和 40 年代まで使われていた宇治茶の生産と販売に関する用具を収集しました。生産用具は、茶農家や茶問屋が茶樹を栽培して、茶摘み、茶蒸し、乾燥を行い、一次加工の荒茶に仕上げるまでの用具と、荒茶を選別し、製品に仕上げて出荷するまでの用具です。生産用具には、覆下栽培法と呼ばれる茶の栽培法に用いた用具や「青製」や「宇治製」と呼ばれる茶葉の手摘み作業で用いた、宇治ならではの製茶用具が収集されています。一方、販売用具は、商業用具、計算・計量用具、印章などで、なかでも印章は、茶の銘柄を刻印した印判などが数多く収集されています。（令和 4 年 3 月登録）



宇治茶の生産用具



宇治茶の販売用具

淀藩主永井家墓所 京都府指定史跡

「淀藩主永井家墓所」は、宇治川右岸にある興聖寺にあります。興聖寺は、仏徳山と号する曹洞宗の名刹で道元禅師を開祖としており、1649 年、当時の淀城主、永井尚政によって、宇治七茗園の一つの朝日茶園であった現在の場所に再興されました。寺域の最も高いところに開山塔を初め開基塔（永井氏塋行）が立ち並んでおり、いかにも聖域といった佇まいとなっています。（令和 4 年 3 月指定）



庵寺山古墳からの眺望

毎年春と秋に墳頂を開放し、一般公開しています。今年度は秋のみ一般公開を実施しました。

